

体育・スポーツ指導力養成プログラム アンケート調査結果

平成 27・28 年度プログラム修了生（15 名分）

*なお、結果は質問項目から一部抜粋しています。

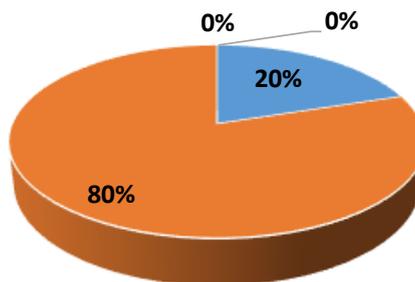
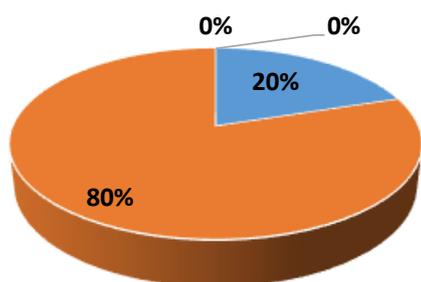
全結果を閲覧したい方は、運動部活動指導者育成室 075-644-8143（担当林田）までご連絡下さい。

Q1. 下記項目に関する理解について、プログラムにより理解が深まったか？

■ とても深まった ■ やや深まった ■ あまり深まらなかった ■ 全く深まらなかった

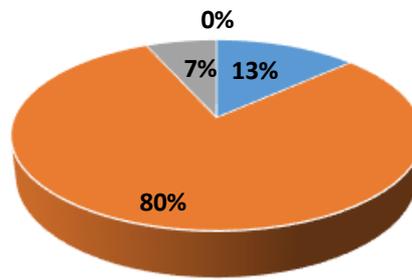
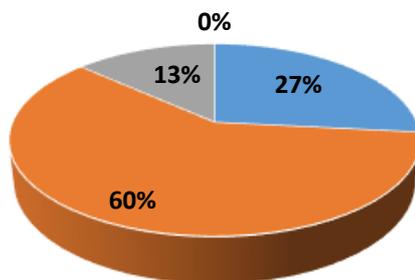
■ 児童・生徒の集団を統率・指揮する仕方

■ 児童・生徒の興味・関心・意欲を高める指導の仕方



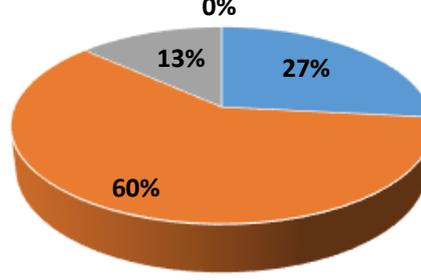
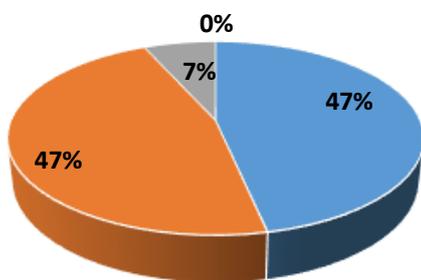
■ 児童・生徒とのコミュニケーションの取り方

■ 児童・生徒への声掛け（発問・注意）の仕方

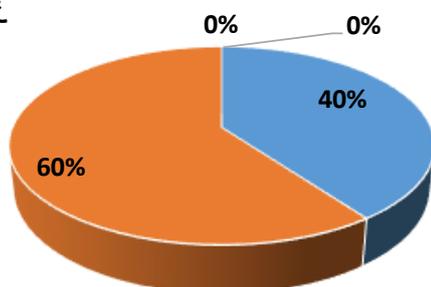


■ 安全（けが・事故の予防）への配慮の仕方

■ 発育発達に応じた練習メニュー・活動内容



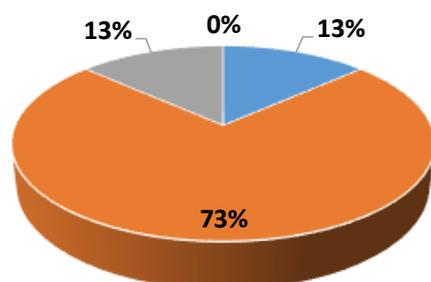
■ 指導者（教員）としての心構え



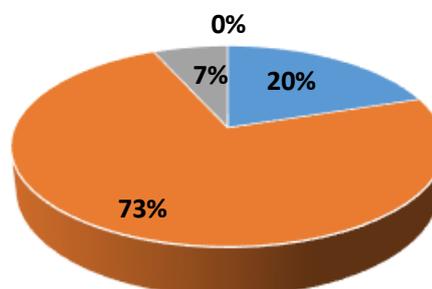
Q2. 下記項目に関する実践力について、プログラムにより実践力が高まったか？

■ とても高まった ■ やや高まった ■ あまり高まらなかった ■ 全く高まらなかった

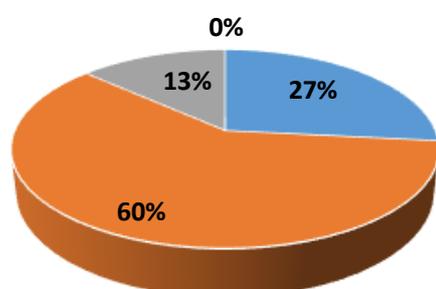
■ 児童・生徒の集団を統率・指揮する力



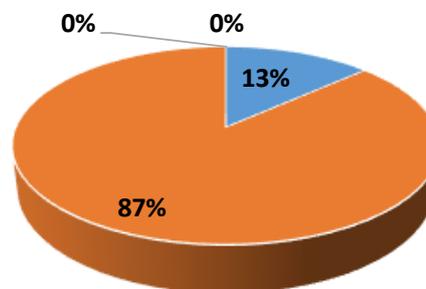
■ 児童・生徒の興味・関心・意欲を高める指導力



■ 児童・生徒とコミュニケーションをとる力



■ 児童・生徒への声かけ（発問・注意）する力



Q3. プログラムを受講し、見つけた課題、高まった力は？（自由記述、一部抜粋）

■ 見つけた課題

✓ 練習内容（運動内容）、指導について

・子どもの特性に合わせた指導力、1人1人に配慮した運動内容を作る力が必要だと感じた。

・個に応じた指導や練習法などの引き出しが足りないことに気づいた。

・児童の人数、相手にしている子どもに応じて、運動内容を柔軟に変えていく必要性を感じた。

・自分が競技をすることと、子どもへの指導は大きく異なっていて、頭でわかっているても教えることは難しいことがわかった。感覚を子どもに伝える言葉、練習（運動）メニューを持つことが必要であることがわかった。

✓ 集団のマネジメントについて

・集団をまとめるためには、明確な指示と計画の必要性を感じた。

・指示を的確にかつ分かりやすく伝える力や、集中力がない児童を統率する力が必要だと感じた。

✓ **その他**

・褒めること、子どものやる気を引き出すことは実践できたが、叱ること、指導することは難しく、メリハリのある教員としての力は不十分であると感じた。

■ **高まった力**

✓ **練習内容（運動内容）、指導について**

・部活指導を想定する中で、指導者としてどのようにふるまえば良いかを知ることができた。技術的な指導の仕方、声かけの仕方について、具体的に実践の中で学び力がついた。

・メニュー（運動内容）を提示する際、どの提示方法が良いかを考える中で、指導力が向上した。

・発達段階に応じた練習（運動）内容を考える力がついた。

・子どもが飽きずに楽しく学べる練習（運動）内容を考えることができるようになった。

✓ **集団のマネジメントについて**

・全体を見ようとする力が高まった。

・集団をまとめる力がついた。例えば、自分がまわりに迷惑をかけていると子どもに認識させることで、自分もやらなければならないと、自覚させることができる。

・集団活動する時と、自由な時（休憩など）にメリハリをつけて子どもと接することができるようになった。“やる時はやる”という雰囲気作りができるようになった。

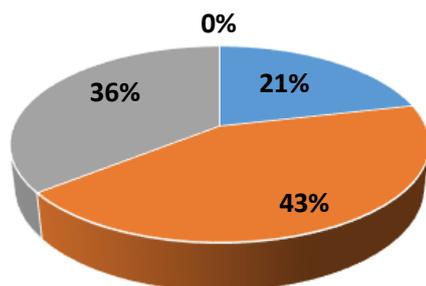
・教員の立ち位置、集団に向けて話す際の間合いを理解し、実践できるようになった。

✓ **その他**

・やっちはいけないことをしている子に注意ができるようになった。

Q4. プログラムの受講が、他の学生生活場面で役立ったか？（授業、教育実習、教採など）

■ とても役立った ■ やや役立った ■ あまり役立たなかった ■ 全く役立たなかった



✓ **教育実習**

・子どもの発達段階の理解、競技の特性の理解ができ、子どもに合った声かけができるようになり、教育実習の際の部活動指導に役立った。

・教育実習で、人数や環境を考えて、集団を動かそうという意識ができた。

・1・2回生の内から参加していたことで、教育実習で子どもと接しやすかった。

・教育実習で、①練習（運動）内容の説明など、短く分かりやすく伝えること、②運動量が均一になるように授

業を構成できた、③どんな子（得意・苦手）でも楽しめる授業を考えることができた。

✓ **教員採用試験**

・児童の様子をしっかり理解でき、教員採用試験で話す際に役立った。

・子どもに合わせた教材を考えたり、教員採用試験の面接時に、子どもとの具体的な関わりについて話すことができた。

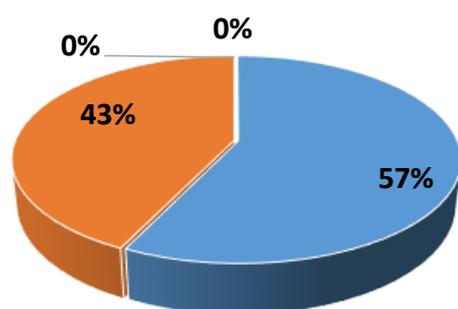
✓ **その他**

・総合育成支援員として公立の小学校現場に立った際、体育や休み時間に子どもを見る視点を増やすことができた。

Q5. プログラムでの、客員教授の指導、インターンシップⅠ/Ⅱは満足でしたか？

■ とても満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ とても不満

✓ 客員教授の指導

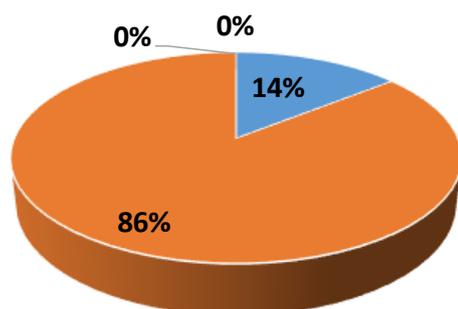


・競技の指導や子どもの理解など、毎回のミーティングで指導して頂いたり、現場での過去の経験など貴重な話をきくことができた。

・学校現場を長年経験された先生方の指導は、とても貴重で実践につながるものが多かった。

・とても熱心な指導の中で、多くの事にチャレンジさせて頂いた。

✓ インターンシップⅠ/Ⅱ



・教育実習を前に、たくさんの子どもと関わることができたこと。

・学年ごとに様々な練習法や指導法があることを知れた点。

・様々なスポーツや児童と関わって、楽しく学ぶことができた。また、スタッフや先生から色々と指導を教えて頂くとともに、質問すれば丁寧に答えて頂いたので、非常にやりやすかった。

・初心者に教えることで、教えることの難しさを実感できた。

Q6. プログラムを終えて、最も心に残っている出来事を教えてください。（一部抜粋）

・陸上クラブで障害のある子の補助をしていた時に、注意して泣かせてしまいましたが、そこから信頼関係を築けたことが充実していて、印象に残っています。

・出来なかったことを出来るようになった児童の笑顔を見て、教える喜びを感じました。バスケットボール教室

で、なかなかシュートが入らず落ち込んでいる3年生の男の子がいました。その子にシュートのフォームや、狙う位置などを付き添いながら教え、シュートが入るようになりました。それからは、ゲームで消極的だった男の子が積極的にシュートを打つようになり、ゲームで得点も決めれるようになりました。出来るようになった男の子の、あの嬉しそうな笑顔は今でも忘れません。